

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)
(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

1. 講 師 東京大学大学院医学系研究科 病因・病理学専攻
免疫学講座 教授 高柳 広 先生

2. 演 題 骨免疫学の最前線

3. 日 時 平成27年9月9日(水)17:30~19:30

4. 場 所 M&Dタワー2階 共用講義室1

5. 要 旨

骨代謝と免疫の境界領域である骨免疫学は、炎症性骨破壊疾患である関節リウマチの骨破壊の研究に端を発するが、免疫系ノックアウトマウスの解析や骨髄における造血幹細胞の研究など幅広く発展しつつある。

抗原に抗体が結合した免疫複合体は、微生物に対する生体防御で重要な役割を果たす。免疫複合体は主に Fc 受容体を発現するマクロファージなどの細胞に結合してシグナルを伝えるが、Fc 受容体群が骨代謝に直接影響を及ぼすかどうかは不明であった。ここでは、免疫複合体による破骨細胞の直接制御機構についての最新の知見を紹介する。また、関節リウマチ骨破壊において重要な RANKL の起源は滑膜細胞と T 細胞のどちらなのかという長年に渡る論争を解決した最新の研究について概説する。

連絡先： 中島 友紀（分子情報伝達学分野 内線5472）